再評価結果（平成１６年度事業継続箇所）

担　当　課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島威夫

事業名	一般国道２２８号　函館・江差自動車道 茂辺地木古内道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道上磯郡上磯町字茂辺地 至：北海道上磯郡木古内町字大平			延長	１６．０ｋｍ

事業概要

函館・江差自動車道は渡島地域の中心都市である函館市と檜山地域の中心都市である江差町を結ぶ延長約７０ｋｍの一般国道の自動車専用道路である。

このうち茂辺地木古内道路は、茂辺地ＩＣから木古内ＩＣに至る延長１６．０ｋｍの区間で、地域連携の強化、物流効率化の支援等に寄与する。

Ｈ６年度事業化	Ｈ－年度都市計画決定	Ｈ１０年度用地着手	Ｈ１３年度工事着手
全体事業費	約３７０億円	事業進捗率	１０％
計画交通量	１５，９００台／日	供用済延長	０．０km

費用対効果分析結果	Ｂ／Ｃ	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) ４．２ (残事業) ４．３	２７１/２７６億円 事業費：232/237億円 維持管理費：39/39億円	１，１６９/１，１６９億円 走行時間短縮便益：978/978億円 走行費用減少便益：137/137億円 交通事故減少便益：53/53億円	平成１５年

感度分析の結果

事業全体について感度分析を実施

交通量変動：B/C=４．７(交通量+10%)　B/C=３．８(交通量-10%)
事業費変動：B/C=３．９(事業費+10%)　B/C=４．６(事業費-10%)
事業期間変動：B/C=４．０(事業期間+20%)　B/C=４．５(事業期間-20%)

事業の効果等

・円滑なモビリティの確保（第二種空港函館空港へのアクセス向上が見込まれる）
・国土・地域ネットワークの構築（隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する）

他７項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

茂辺地木古内道路は、高速ネットワークを確立し、地域間交流の促進と連携の強化等に重要な役割を果たすことが期待されており、渡島檜山２７市町村の首長及び議会議長で構成される高規格幹線道路函館・江差自動車道早期建設促進期成会等５つの期成会より早期整備の要望を受けている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成１４年度に函館・江差自動車道函館ＩＣ～上磯ＩＣ間（Ｌ＝８ｋｍ）が開通した。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成６年度より事業着手しており、平成８年度の環境影響評価を経て設計協議を行い平成１０年度に用地着手している。その後、関係地権者との調整や埋蔵文化財調査等を行い、平成１３年度から工事に着手している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き用地補償及び工事を促進し、早期供用に努める。

施設の構造や工法の変更等

インターチェンジ、縦断線形の見直しを行う等コスト縮減を図っている。

対応方針　事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。